

令和3年度『光寿会事業計画』

① 光寿苑短期入居事業休止 → 個別のケアを再構築します！

短期入居事業休止の一方で、個別ケア再構築のために人員が3ユニットに集結したと捉えたい。また、ひなたぼっこ直近3年間の実績に合せた登録定員18名に変更。出向職員を定着化し、法人全職員でチームとなりたい。

【事業を縮小する事により関わりを深められる効果】

② 夜勤2名体制開始に伴い介護の質向上を目指します！

前述のように短期入居事業を休止とし、夜勤対応職員数及び日中の介護職員数の確保を図る措置をとった。これに連動し、日々の個浴ケア等の技術伝道や再検証、職員研鑽のための苑内研修の充実等、介護の質の向上を図る。

【定員縮小の事業転換期は介護の質の向上を図る効果】

③ 明日の担い手に出遇える場づくりをします！

人材確保の一環として昨年度より町と町内事業所の協働で始まった小中学校での『介護の魅力化事業』。実話を基にした寸劇や介護のプラス志向の3Kを通じ、児童・生徒が介護に良いイメージを持ってもらえる様に臨む。

【介護の楽しさ・豊かさを働く私たちが発信し深める効果】

④ コロナ対策尽力の一方でお年寄りの心と命を護ります！

未曾有の世情で感染症対策に万全を期す一方で、お年寄りの暮らしのストレスをいかに緩和できるかが課題。感染対策をとった上での行事企画や大切なご家族との面会や外出実現に向けて思考と実践を諦めず試みたい。

【安全な環境確保と豊かな暮らしが共存できる効果】

⑤ 3.11から10年…心と体制双方の『防災』に取り組めます！

『職員心得』でも触れているように、慢心や偏見を見直す「心の防災」意識をまず持ちたい。その上で防災訓練のあり方も、負傷者や行方不明者等を想定するより緊迫感を持った内容に挑戦しながら全体の防災意識を高めたい。

【リアルな訓練実施の中で個々の防災意識向上を図る効果】

※以上5点を継続して実施しながら、一步一步進んで参ります。

あいさつの心得

光寿会の基本姿勢 … 『サービスとは、挨拶そのものに尽きる』

- ◎挨拶の「挨」は、
様々ないきさつを投げ捨てて、わが胸を開くことである。
(相手の胸を開かせることではない!)
- ◎挨拶の「拶」は、
「あなたが居てくれることが私の幸せです……」と、
わが胸に相手を抱きしめることである。

3つの基本姿勢

- ① 上司・同僚の話は、身を向けて（ヘソを向けて）、耳を澄まして聴く。
お年寄りを敬い、ニーズを知る訓練の基本。
- ② 居室に入るときは、一瞬立ち止まって、
「彼は今何を求め、何に悩んでいるだろうか」と黙想してから入る。
心の中に余裕を持つ基本。[他のお年寄りにも声掛けを忘れない事]
- ③ お年寄りとの会話は、ひざを折って、目の高さを同じにして話す。
お年寄りと、介護者が平等の立場で話し合うための基本。
特に、相手が興奮状態などのときの会話の基本。

★ 視線は適度に合わせる必要があります。私が全く視線を合わせないと、相手は「冷たさ・無視されている・無関心」を感じます。逆に、視界に入り込んで視線を合せ過ぎると「圧迫感」が生じます。適当に視線を合わせたり外したりすることが必要になってきます。

★ 要するに、24時間365日の認知症ではないですし、いつも興奮している訳でもありません。視界から外れて欲しい時だってあるものです。

⇒ そのような際の上質なコミュニケーション法としては、『縁側効果』（三好春樹氏）があります。横に座って、同じ景色（山、桜、お天気等々）を共有しながら、時折、視線を合わせる。そして、共有している景色をきっかけとした言葉を発してみる。これが程よく、よい印象や気分が残りやすいのです。

★ 最後に、関わるすべての人をつなぐことのできるコミュニケーションの最大の表現力は、『笑顔』です。人の習慣は、一般的な人で、21日間同じことを信念をもって続けていけば、その人のものに成るとされています。
心から笑顔で過ごせる習慣を心がけ、続けてみましょう。

(2) 会議・委員会体系図

別表15

